

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800120	事業の開始年月日	平成 21年10月
		指定年月日	平成 27年10月
法人名	(株式会社) ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター荏田東		
所在地	(〒224-0006) 横浜市都筑区荏田東4-18-23		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年11月8日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>*常に一人ひとりの思いを大切に、寄り添い安全・安心な生活が送れるよう支援している。 *ご家族に入居者の状況を密に報告・相談し、ご家族との信頼関係を築くように努めている。 *入居者に楽しみをもって頂くために、季節毎に様々な行事を企画し大変喜ばれています。 *ホームには畑もあり小学生との交流で芋掘りなども行っています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年11月25日	評価機関 評価決定日	令和2年2月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は横浜市営地下鉄センター南駅から徒歩10分程の静かな住宅地にあるアットホームな事業所である。そばには緑豊かな都筑中央公園、近くには鴨池公園があり環境に恵まれている。建物は鉄骨2階建てで、敷地内には手入れされた畑があり小松菜、大根など冬野菜を育てている。</p> <p>【理念と利用者の日常】 理念は「明るい笑顔、愛する心を大切にします」、「感謝の心を大切にし、真心をこめて介護します」、「プライバシーを守ります」の3項目からできている。職員は散歩に力を入れている。利用者全員が散歩を好み、天候や体調不良以外は散歩が日課になっている。車椅子利用の利用者と、歩行可能な利用者が一緒に散歩している。利用者に来る事をしてもらう「お仕事分担表」がある。食事の支度を分担したり、皆で洗濯物たたみ等を行っている。</p> <p>【地域との関係】 荏田4丁目東自治会に加入し、利用者とともに運動会、祭り、清掃活動、職員のみで防災訓練に参加している。地域住民とは挨拶を交わしており、花やタケノコをもらったことがある。近隣の小学校の生徒が2カ月に1回ぐらい訪問し利用者と歌やゲームなどを楽しんだり、芋ほりに参加してもらうなど交流している。フラダンス、絵手紙のボランティアは不定期に訪れている。そのほか歌手を招いて催しを開催しており、地域住民が参加することもある。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	そよ風

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を事務所に掲示している。	理念は開所時に管理者と職員が作り、事務所や廊下などに掲げている。利用者の笑顔を大切に、誇りを傷つけないような言葉かけを心掛けている。ホーム会議で理念が実践できているか話し合いをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時ご近所の方々との挨拶や会話を通し交流を深めています。地域のお祭り・運動会・清掃活動に参加し関係を深めています。	荏田4丁目東自治会に加入し、利用者とともに運動会、祭り、清掃活動、職員のみで防災訓練に参加している。地域住民とは挨拶を交わしており、花やタケノコをもらったことがある。近隣の小学校の生徒が2カ月に1回ぐらい訪問し利用者と歌やゲームなどを楽しんだり、芋ほりに参加してもらうなど交流している。フラダンス、絵手紙のボランティアは不定期に訪れている。そのほか歌手による催しを開催しており、地域住民が参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からのご質問や相談を受けるなどし、今後も地域に向けて発信していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況を報告し、地域や家族の要望や意見を運営に取り入れている。外部評価や自己評価の結果、改善点、その後の取り組みについても報告している。	運営推進会議は利用者の死去や体調不良などが重なり年3回しか実施していないが、家族代表、近隣住民、自治会の班長などが参加している。区の担当職員は参加の予定であったが日程変更の為、参加してもらえなかった。出席した家族から「最期まで見てもらえてうれしい」、「職員からよくケアしてもらい安心して」といった感謝の言葉があった。	運営推進会議は定期的に開催することが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務手続き以外にも色々な相談を行っています。主に管理者が行い協力関係を築いています。	都筑区高齢・障害支援課に管理者が、毎月訪問して事業所の状況報告等をしている。担当者は「事業所のチラシを置いてもよい」等、親身になって話を聞いてくれている。横浜高齢者グループホーム連絡会（都筑ブロック）に加入し、管理者が会議などに出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回身体拘束防止委員会を開いている。もしベッド柵に鈴を付けたりする場合は家族に現状を伝え身体拘束同意書に印を頂いている。	毎月1回身体拘束防止委員会、身体拘束廃止についての研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。転落などのリスクを抱える利用者に対して、ベッドに柵を設置するのではなく、和室に布団を敷いて、寝てもらうなど、介護上の工夫をしていた。玄関、ユニット口は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回身体拘束防止委員会と同時開催して虐待防止についても勉強会をし、一人ひとりが自覚し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用しているかたは居ません。成年後見人制度についてミーティングで勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には十分に時間をかけ説明を行い、質問にも丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情を気軽に話せるようにしている。	家族には家族会、運営推進会議で意見を出せる場がある。11月の家族会で「家族同士が交流する場を増やして欲しい」という意見が寄せられた。次回のホーム会議で、家族が参加できるような行事の実施について職員間で話し合うことになっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングで要望などを集約している。	ホーム会議や業務の中で職員の意見を聞いている。また、食事の際、悩みなどを聞くこともある。職員から「歩行での散歩の先にある紅葉を利用者に見せてあげたいので車イスを利用して良いか」という提案があり、それを採用して実現させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤怠を把握し、必要に応じて個人面談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がケアにあたる様子を観察しながら指導し、特に新人職員には折にふれケアの指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通し、職員が他施設へ、見学・交流する機会があればと考えています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、困っていること、不安なことを聞き、その人を知り、安心感を高めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にどのようなことに困っているかを聞き、再度入居時には家族の気持ちに耳を傾け、信頼関係を作っていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に関しては、入居待ちの期間の対応策として小規模多機能の利用、他グループホームへの入居申し込みなどの助言をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は人生の先輩であり、沢山の知識や経験が豊富であり、私達の知らないことや、料理など教えて頂く事が多く、双方の関係が保たれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン説明時・面会時・行事参加時など事あるごとに連絡や相談を行い協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・友人の方々の面会が多い。自宅に墓参りに帰ったりして、大切な関係が途切れないようにご家族の協力を得て支援している。（家族からの制限が無い限り、家族以外の知人の面会制限はしていない）	家族の了解を得て友人知人に訪問してもらっている。利用者と顔なじみの元利用者家族の訪問もある。利用者は居室で談笑し、必要な方には居間で職員がサポートして関係が継続できるようにしている。墓参り、馴染みの美容室に家族と出かける利用者もある。手紙や電話の取次ぎをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性を把握し、生活の中心となるリビングのテーブル席を決めている。楽しく過ごして頂けるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が亡くなられたあとなど運営推進会議に出席して下さるかた、野菜を届けてくださる方などいる。他施設に転居した家族の相談に乗っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や仕草で本人の意向を汲み取り、得意の事を探し笑顔が出るように工夫している。	思いや意向の把握が難しい利用者は表情や仕草を見て察している。日々の暮らしの中で行動等から利用者の得意分野を見極めて「ぬりえをやってみない」など声を掛けている。利用者との馴染みが深くなると職員の言葉を理解して表情で応えてくれることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より生活歴などの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態・体調などの把握が出来る様になっている。計画的・画一的な日課にならないように注意している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は家族の意向と職員の意見を参考にしている。	家族、職員、医師の意見を反映した介護計画になっている。サービス担当者会議には、家族や医師も参加するケースがある。長期は1年、短期は6か月、状態に変化があった場合は随時に計画を見直している。モニタリングは6か月に1回実施し、毎月のホーム会議で利用者の状態について話し合いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は入居者の訴えや行動その日の水分量・排泄・服薬・食事量の記入・暮らしの様子・表情・言葉を記録し、職員間で情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は家族の希望に基き同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校・自治会の運動会や行事などに参加して交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意のもとに、往診医と連携をとり支援している。現在は居ませんが、入居前からの医療機関を希望される方はそちらと連携をとり、納得いく医療を受けられるようにしています。	利用者全員が事業所の協力医（内科）を利用している。皮膚科への受診は必要時に職員が送迎している。馴染みの歯科医に家族と通院する利用者がある。協力医以外は家族対応であるが、家族の希望により管理者が同行する場合がある。「支援経過記録」で受診結果を共有している。協力医、歯科医が月2回、看護師、歯科衛生士が週1回訪れる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の情報は職員から管理者へ伝達して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は面会に行っている。早い段階での退院を支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期について今現在の気持ちを聞いている。重度化や終末期が近づくと家族の希望を主治医・ホーム側・家族とで話し合い今後の方針を再度確認しあいチームで支援を行っている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、家族の同意を得ている。重度化した場合は、意向を再確認している。終末期研修を実施しており、対象者がある場合は個別のマニュアルを作成して対応する。開所以来10人以上の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の急変や事故発生時には、夜勤者から管理者へ連絡し主治医・家族への早い連絡を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	決められた避難訓練を行っている。訓練後には反省会を行い次回以降の改善に努めている。	避難訓練は9月（昼間）、利用者と一緒に実施している。次回は令和2年3月に夜間想定で実施の予定である。地域住民には避難訓練の実施のお知らせをしている。訓練の参加は難しいが何かあった場合は協力すると言われている。災害に備えてカセットコンロ、水、おかゆ、缶詰など食品類3日分を備蓄している。また、利用者毎のリュクサックに着替え、ティッシュなどを詰めて保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ目線で手や肩に触れながら声かけをし、信頼関係や安心感を心がけている。不必要なことは、他の方に話さないようにしている。	職員は入職時に法人の接遇研修を受けており、事業所でも年1回の接遇研修を実施している。管理者は「利用者と同じ目線でスキンシップを取りながら聞き上手になるように」と職員に伝えている。個人情報を含む書類は、事務所の書棚で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の能力・体力にあわせ其々話し合い皆さんで分担して作業をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調により洗濯量。洗濯干し・食器洗い・食器拭きなど手伝って頂いたり、職員と一緒にカラオケや散歩を行っている。（ご本人の希望に沿って支援を行っている）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人と一緒に選び、ご自分で選んだ洋服をなるべく着て頂いている。2ヶ月に一度訪問美容に来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳・下膳と一緒に 行っている。食事準備前に何が 食べたいのか皆さんで話し合っ てメニューを決めたりしてい る。	献立付きで専門業者の食材を利用（昼 食、夕食）していたが、1階は10月から職員 の提案で、買い出しに行く方式に変更 した。献立は職員が栄養バランスを考慮 して作成している。行事食は全て事業所 で手作りしている。職員は利用者の食事 が進むように声を掛けていた。利用者の 誕生会は、皆でお祝いしてケーキを食 べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保で きるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を している	入居者の状況に合わせて食事形 態を変更している。摂取量を記 録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひと りの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ・誘 導・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や 排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排 泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ・リハパン・失禁パンツ などその方の能力に応じた対応 を行っている。カンファレンス により見直しを行っている。 定時誘導を行っている。	昼間はトイレでの排泄を基本にしてい る。夜間はポータブルトイレを利用す る方もいる。排泄は自立の方も居るが、必 要な方には排泄チェック表を作成し、そ の人に合わせた支援をしている。入居 後、排泄の支援でリハビリパンツやパ ットを使用していた利用者の4名～5名は布 パンツに変わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動 への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため牛乳・ヨー グルトなど朝食前に食べて頂き 腸内運動を活発化させ自然排便 に繋げている。主治医と相談し 下剤なども使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	目安として入浴回数は決まっているが、ご本人の希望により回数が増えることもある。介助する職員と会話をしたりして入浴を出来るだけ楽しんで頂けるように心がけている。	週2回、9時から11時位の入浴が中心になっている。ヒートショック予防の為に脱衣所にはエアコン、浴室には浴室暖房を設置している。利用者から入浴を1回断られると職員を変えてみたり、話題を変えて話すなどして入浴してもらっている。浴槽にバラの花を入れたり、ヨモギを入れて楽しむことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡は30分から1時間自由に行っている。入居者の状態を観察して自室へ誘導している。日光浴などをして生活リズムを整えるなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品庫で施錠保管し、服用時には2名の職員で確認して最後に本人に本人名を確認して頂き、飲み込みまで確認する。往診後、受診記録と薬剤情報を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃より行っていた家事仕事を常にやっています。貼り絵・塗り絵などもして頂きリビングに展示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が日課になっていた方などは30分ぐらい散歩し季節の花や動物（カモ・猫・ニワトリなど）を見たりしています。個別の外出支援は介護タクシーを利用しています。海や山・花・食事など季節を感じに出かけました。	天候や体調が悪いとき以外は日課として、午前中を中心に30分程度、近隣の公園などに散歩に出かけている。午後も希望があれば対応している。利用者は全員、散歩を好まれ職員と順番に出かけている。遠足では、5月に介護タクシーを利用して箱根の「山のホテル」に出かけ、つつじを楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はお小遣いとしてお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力に応じて、電話や手紙のやりとりを援助しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには切り絵などを飾っています。皆さんの話題のきっかけになるように、季節や小学生からのメッセージ・今年の抱負などを掲示しています。	居間は明るく空調設備や加湿器で温度・湿度を快適に保っている。玄関、居間には柿の実、モミジなどを飾り季節感がある。廊下には、利用者の「お仕事分担表」、職員が書いた運動会時の一人ひとりへの感謝状や、近隣の小学校から贈られたカードなど多数掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル・椅子がありその時々で交流出来るよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで使用して頂いている。心身機能の状態に合わせて家族と相談して家具の撤去や導入を行っています。	居室にはエアコン、照明器具、クローゼット、カーテン、スライド式ハンガーが設置されている。入居時に職員からプレゼントされた手作りの表札、作品、似顔絵を飾っている方が多い。使い慣れた家具、テレビ、椅子、時計、写真、ぬいぐるみなどを持ち込んで居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に手作り表札をつけています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター荏田東

作成日 2020年3月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に関して	行政や地域包括支援センターの方々の参加が少ないため、今後は参加を増す。	行政や地域包括支援センターに参加して頂けるよう依頼していく。	12ヶ月
2	13	地域との協力体制を築いて防災災害時に備えたい。	地域消防団との連携をより一層図り協力体制の強化。	運営推進会議への参加と防災訓練への参加を呼びかける。	12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。